



“学びの森”だより

2月号

2月1日発行

誰に似たの？

年末から年始にかけて、我が家にも、長男と次男が、それぞれ家族連れで帰省してきました。とりわけ、次男一家（父・母・4才長女・2才次女）は約3週間にわたり、我が家で生活をしました。その中で、おしゃべりが上手になってきた2才次女の言葉に、「ハッとさせられる場面」があったので、いくつか紹介したいと思います。

1 「ちょっと失礼します」



私たち夫婦と次男一家で、イチゴ狩りに行った時のハウスの中でのことです。ハウスの中は、比較的空いてはいましたが、通路はそんなに広くないので、他のお客さんとすれ違うときには、ぶつからないように、少し気を遣います。そんな中、口の周りを真っ赤にした次女が、通路の遠くの方から、「じいじ、ばあば」と言いながら、私達のところへ近づいて来ました。丁度私達の少し横には、3人の若い娘さん達が固まっており、彼女は、そこを歩いてきます。私達は、「どうするのだろう？」と見ていました。すると、彼女は、右手を少し前に差し出し、身体を細めて前屈みになり、「ちょっと失礼します。」と言いながら、娘さん達の側をゆっくりとすり抜け、私達の所へ来ました。私達は、思わず目を丸くしました。

2 「お疲れ！」

みんなで、1階の部屋で過ごしていた時のことです。ただ、次男のお嫁さんだけは、その日にリモートの仕事があったので、朝の8時ころから、2階の部屋で、1人でパソコンと向き合っていました。次女からすると、その日は母親と遊べない寂しさはあるのですが、家の中や外で、みんなでおままごとをしたりシャボン玉を飛ばしたりと、楽しく過ごしました。

夕方5時過ぎ、仕事が終わったようで、2階から降りてくる母親の足音が聞こえてきました。次女もそのことがわかったらしく、瞬く間に満面の笑顔になりました。そして、部屋のドアが開き、母親が現れました。その顔を見た瞬間、次女が大きな声で発した言葉は、喜びの声ではなく、「お疲れ！」でした。私達は、思わず吹き出しそうになりました。

3 「じゃあ、散歩にでも行くか！」

その日は、次男夫婦が出かけたため、私達夫婦と孫達の4人で過ごしていました。午前中は日差しもなく、肌寒かったので、室内で孫達にたっぷり遊んでもらいました。午後になり、太陽が顔を見せ始め、少しずつ暖かくなってきました。午前中はずっと部屋で過ごしていたので、午後は少し外に出た方がいいと思い、孫達に「お日様が出て来たね。どうしようか？」と声を掛けたところ、すかさず次女から出た言葉は、「じゃあ、散歩にでも行くか！」でした。「行こう」ではなく「行くか」。私達は、思わず顔を見合わせました。

「ちょっと失礼します」「お疲れ！」「じゃあ、散歩にでも行くか！」という言葉、身体を細くしながら人混みを避けた行動、2才の子の言動とは思えませんし、もちろん、誰かが教えたわけでもありません。これらは、すべて2才の次女が、知らず知らずのうちに身に付けた言動であり、その原点は、間違いなく彼女と接する機会が最も多い両親だと思えます。きっと、次男夫婦が、普段から同じような言葉を発したり、行動をとっていたりするのを見ていたのだと思います。「育てたように子は育つ」ということでしょうか。

「育てたように子は育つ」、私は研修会の時に、時々この話をすることがあります。この言葉は親子の場合によく使いますが、学校生活でも同じことが言えると思います。1年間、学級で子供たちと接していると、年度末、不思議なことに、良くも悪くも、自分と同じような言葉遣いや行動、周りの人への接し方などをする子供たちが、多く現れます。もしかしたら、それが自分の1年間の学級経営の答えなのかも知れません。

あと2か月ほどで、学年末を迎えます。みなさんの周りに、自分と似たような子供たちはいませんか？

(文責：富田 穰二指導員)



研修主任研修会

1月16日(月)「裾野市 研修主任研修会」が開催されました。学校それぞれ規模や実態、研修に必要な支援も異なるため、今年度は各校の研修主任の希望を伺いながらすすめてきました。今回は初めての集合研修だったため、情報交換の場としました。来年度も同様に各校の実情に寄り添い、効果の上がる支援をしていきたいと思えます。



編集・発行：“学びの森”

〒410-1102 裾野市深良 435 番地

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>



© 裾野市